

# 平成 30 年度事業計画

自 平成 30 年 4 月 1 日  
至 平成 31 年 3 月 31 日

社会福祉法人 いこま福社会



はじめに

年明けとともに地域生活支援拠点事業がいよいよ始まった。まだ、試行的段階ではあるが、これから障がい者の地域での暮らしを支える新たなシステム作りが始まる。拠点で求められる5つの機能 ①相談 ②体験 ③緊急時の対応 ④人材育成 ⑤地域の体制づくり これらの機能を整備し充実したものにするには、他事業所や行政との連携とその関係の強化が必要と言える。

一方で「社会福祉法人のあり方改革」に始まり、「共生社会に向けた取り組み」へと社会福祉法人に期待がより強くなっている。これまで取り組んできた事柄について自信をもって「見える化」を図り、社会福祉法人の様子が一般社会に対して理解していただけるような工夫も必要であるが、同時に我々自身も複雑化する社会の中で、様々な社会問題に対してこれまで以上に関心をもっていくことが必要となる。

しかし、求められることがらが多くなる反面、職員不足の問題が深刻で、事業のあり方を考え直さなければならない事態へ陥っている法人や事業所も多いと聞く。

いこま福祉会もこの問題を深刻に受け止めている。これまで以上に、求められるサービスの見極めも大切だと感じている。

年月の経過と共にサービスという言葉が本来似つかわしくなかった現場の仕事が、いまやその言葉に抵抗感を感じることなくなってきた。サービスの提供側が抱える危機感と厳しい現実を受け手側にもしっかりと理解してもらい、共に考え、危機を乗り越えていけるようにしていかなければならない。

## 1. 法人本部

### (1) 人材育成・研修

#### ①法人内研修の充実

- ・職員の間力／技術力／実務力を養うため、人材育成を考えた福祉分野にとどまらない研修を継続して企画していく。
- ・法人が事務局を担う自閉症 e サービス@奈良の講習を活用し、自閉症支援について初級講座、中級講座など職員の状況に応じた研修の機会を設ける。

#### ②事業所間の職員交換研修

- ・職員不足で人事異動にも影響が出ているなかで、法人内の事業所間で職員の交換研修を行うことにより、他事業所についての理解を深め、職員が幅広い視点を養うことができるよう取り組む。

### ③人材確保

- ・昨年度から実施しているインターンについて、農業体験などを取り入れた魅力ある企画を実施し、また、奈良県大学連合だけでなく、各大学へも案内していく。
- ・社会福祉士や介護等体験、保育士実習の受入れ時にも良い人材は実習後のボランティアやアルバイトに繋がるようオリエンテーション等で案内する。
- ・大手求人サイト『マイナビ』を活用した大学求人、更に Face to fukushi や福祉人材センターが主催する就職フェアに参画し、学生に対して早い時期から情報提供と接点を作り、採用に繋げていく。

## (2) 事業推進

### ①暮らしプロジェクト

- ・新たなグループホームの創設のための準備や人材確保が困難な中、現在のグループホームでの職員体制や働き方についてより良い体制や働き方がないか検討する。

### ②農業プロジェクト

- ・各農地の年間プログラムを作成し、計画的に農作業を進めていく。
- ・近畿大学農学部や農業法人との連携を進め、有機栽培の研究や農作業の指導、地域住民を対象とした農業体験の実施、農業イベントを活用したインターンの実施を行うなど、農福連携に取り組んでいく。

### ③働くプロジェクト

- ・就労継続支援 B 型の報酬算定が月額工賃の支給額に応じて分けられることが示されている中、工賃向上に向けて検討を行う。

### ④余暇プロジェクト

- ・休日開所やアフター 5、グループホームの余暇イベントなど、余暇の充実を図る企画を検討していく。
- ・和家の活用法として、日中一時支援での利用、グループホームの余暇イベント、少人数制の教室などを企画検討していく。

### ⑤海外支援・交流

- ・昨年度から検討を行い、助成金申請に取り組み始めたセルビア共和国への JICA 草の根基金事業での支援について、6 月に現地に赴き、セルビアの現地調査や現状把握を行い、JICA 草の根基金事業への再度の申請を検討する。

### ⑥中期運営計画の策定

- ・平成 31 年～35 年度の中期運営計画の策定を行う。

### (3) 地域推進

#### ①いこいこまつり

- ・地域住民の文化的なイベントとして知名度も広がっており、今年度は更に地域住民が準備から関わっていただけるよう公益事業化を図っていき、少しずつでも地域が主体となっていくように進めていく。その中で、いこま福祉会の利用者も一員として、地域の方をもてなす役割を担うことができるよう出店やワークショップも取り組んでいく。

#### ②いこま福祉会フォーラム

- ・地域啓発を目的に第2回いこま福祉会フォーラムの開催を企画する。

#### ③地域生活支援拠点事業

- ・平成29年1月からスタートしたが、今年度は更に相談機能などの整備に向けて行政も交えて検討していく。

### (4) 法人事務局職員体制

- ・事務長1名、経理係長1名、事務員 常勤1名、事務員 非常勤3名、サポート1名

### (5) 情報発信

- ・かざぐるま通信（年1回 10月）の発刊。
- ・いこまふくしかい通信（利用者／ご家族対象の機関誌）の発刊  
（年3回 かざぐるま・えーる・きこり・喫茶ゆうほー・工房結）
- ・機関誌かぜいろだより発刊（生活支援センター）
- ・機関誌ふるふるだより発刊（ふるふる）
- ・ホームページを活用した情報発信。活動班の継続した更新やイベント等の報告を更新する。喫茶ゆうほーでは、フェイスブックの活用も行う。
- ・大学や専門学校での講義、事業所の啓発活動
- ・研修や講座での事例報告
- ・たつたあげプロジェクトへの参加（喫茶ゆうほー）
- ・近隣幼稚園や保育園等での紙すき体験の実施
- ・成年後見制度利用促進（グループホーム・福祉ホーム）

### (6) リスク対応

- ・非常災害備蓄品の充実
- ・ヘルパーミーティングによる事例検討、ヒヤリハット報告検証
- ・利用者基礎情報シートの整備
- ・新人アルバイト研修の座学(医療面・障がいについての基礎的な講義)の継続

- ・月に1回のスタッフ会議でのリスク共有・対応検討 ※AED使用方法等
- ・緊急時マニュアル（共通事項・個別）の整理、見直し
- ・救急蘇生法等、救命救急講習の受講
- ・ヒヤリハッと報告に基づいた原因分析と解決策の検討
- ・リスクマネジメント会議の定期的な実施
- ・避難訓練の実施（年2回）
- ・火気の取り扱いについて、職員間での周知徹底
- ・利用者の体調面の情報共有と看護師との連携

#### （7）施設設備

- ・長期的な修繕計画に基づく修繕について、かざぐるま、えーる、福祉ホームの空調は、31年度の入替えに向けた準備を行っていく。

## 2. かざぐるま（生活介護事業・就労継続支援事業B型）、かざぐるまえーる（生活介護事業）

### （1）事業及び経営の重点方針

- ・作業活動内容の充実と、グループ活動の積極的導入
- ・班を越えたチャレンジチームの発足
- ・農作業から加工品製造までの仕組みづくり
- ・生製品の売り上げアップ

### （2）職員体制

#### 【かざぐるま】

- ・施設長1名（サービス管理責任者兼務）  
支援員 常勤3名、嘱託4名、非常勤5名、サポート3名

#### 【えーる】

- ・施設長1名（サービス管理責任者兼務）  
支援員 常勤6名、嘱託2名、非常勤7名、サポート2名

### （3）事業内容

- ・作業内容の見直しを図り、他班の活動に参加する機会や活動グループの中で仲間と一緒に働く機会を増やす。
- ・集中して軽作業に取り組む場所を設定し、日々の数値目標を決めることでモチベーションアップにつなげる。また、作業リーダーを置き、メンバーの主体性を引き出す。

- ・ビニルハウスや高山事業所をうまく活用し、農作業の活動時間を伸ばす。
- ・農業法人ゲミューゼと連携し、野菜販売や加工品製造まですべての行程にメンバーが関われるよう活動の整理と環境整備を行う。
- ・クッキー製造やさをり織り等、生産の安定化を図り、イベント等の販売の機会に積極的に参加する。
- ・ムーランではHP販売をスタートさせ、消費者のニーズを知るとともに品質を維持しながら生産量を増やしていく。

#### (4) 職員育成

- ・自閉症 e サービス中山代表によるコンサルテーション
- ・農福連携に関する先進的取り組みを行う事業所への視察・見学
- ・部署ごとのケース検討会議の実施（困難ケースの抱え込みを防ぎ、支援の共有を図る）

#### (5) 地域との交流・連携

- ・近隣の小・中・高校との交流、体験ボランティア受け入れ
- ・やまびこネットワークとの連携（会議参加・イベント企画等）
- ・農福連携イベントの開催（教育委員会との連携・インターン企画等）
- ・生駒市ボランティアセンターとの連携（ボランティア体験受け入れ等）
- ・第三者委員会やボランティアさんを招いた交流会の実施

#### (6) 施設設備（修繕、備品等購入計画含む、わかるものは費用の概算記入）

- ・釉薬等、廃棄費用（年2回）
- ・行動障害に関するコンサルテーション費（中山氏）
- ・空気清浄機、足湯器
- ・いぶきドアノブ修理
- ・いぶき肘かけ椅子
- ・えーるベンチ、ラック、マット等

#### 農業関係

- ・高山風のファーム備品（マルチ・種苗・燃料等）
- ・ビニルハウス
- ・大型備品（冷蔵庫・机等）
- ・防寒作業着（えーる3班・虹）

#### 加工場

- ・加工場改装工事費・設備費（大型冷凍庫・シンク・作業台等）
- ※国の補助金を申請予定

### 3. きこり（生活介護事業）

#### （1）事業及び経営の重点方針

- ・活動メニューの整理を行う
- ・休憩場所の提供と休憩時間の過ごし方を充実させる
- ・他班も交えた交流プログラムの実施

#### （2）職員体制

- ・施設長 1 名（サービス管理責任者兼務）  
支援員 常勤 1 名、嘱託 1 名、非常勤 1 名 サポート職員 3 名

#### （3）事業内容

- ・室内作業や室外作業において目的を持ってグルーピングし、それぞれが明確な役割を持って活動に参加する。
- ・庭先にブランコ、ハンモック、木製ベンチを設置し、休憩時間の充実化を図ると共に過ごす場所を増やす事で皆が落ち着ける環境を提供する。
- ・簡単な食事会や音楽交流など他班との交流プログラムを検討し実施していく。

#### （4）職員育成

- ・自閉症 e サービス等の研修を通して障がい特性に配慮した支援方法を学ぶ。
- ・きこりとほぼ同じ規模である『村野わらしべ』への施設見学を通して構造化や活動方法のアイデアを学ぶ。

#### （5）地域との交流・連携

- ・高齢者施設や近隣の学校と行事などを通じての交流。
- ・クリーンキャンペーン・きこり畑での活動・公園清掃等で、地域への障がい理解と交流を深める。
- ・自治会清掃への参加

#### （6）施設設備

- ・木製ベンチ 2 脚
- ・ハンモック
- ・ブランコ
- ・ロッキングチェア 3 脚
- ・簡易テント
- ・食洗機 2 台
- ・1 階 2 階トイレ増設



#### 4. 喫茶ゆうほー・工房 結（就労継続支援事業 B 型）

##### （1）事業及び経営の重点方針

###### 【喫茶ゆうほー】

- ・地元野菜を使った“安心安全で優しくておいしい食事”の提供
- ・テイクアウトメニューの開発と実施
- ・メンバーを主体とした厨房・接客業務のマニュアル作り

###### 【工房 結】

- ・漉き技術のスキルアップと、品質の向上
- ・新たな商品開発
- ・内職等の活動内容の充実と環境整備
- ・カレンダーの生産販売

##### （2）職員体制

- ・施設長 1 名（サービス管理責任者兼務）

###### 【喫茶ゆうほー】

支援員 嘱託 1 名、非常勤 2 名、サポート 2 名

###### 【工房 結】

支援員 常勤 1 名、非常勤 1 名、サポート 1 名

##### （3）事業内容

###### 【喫茶ゆうほー】

- ・地域の農家の方との関係を深め、年間を通じて新鮮な野菜を安定して入手できるようにする。また、一方ではいこま福祉会のファームの野菜も定期的に仕入れて安心安全な食事の提供を行う。
- ・テイクアウトメニューとして主婦層のお客様が喜ぶようなおかず（春巻きや竜田揚げ）を提供する。
- ・厨房や接客の業務マニュアルを作成し、業務整理と役割分担の明確化を図る。プロの講師を読んでマナー講座を開く等、やりがいや働きがいを引き出す企画を実施する。

###### 【工房 結】

- ・エイト紙工にご指導を仰ぎ、メンバーが定期的に技術指導を受ける機会を持ち、漉きの技術向上を目指す。
- ・紙すき商品に関する情報収集や他事業所の商品研究等を行い、新たな商品開発に取り組む。
- ・障害特性や得意なことを活かし、内職等の軽作業やマンション清掃、陶磁器回収など多岐にわたる作業活動を取り入れ、充実を図る。

- ・年末のカレンダー販売にむけて、年間スケジュールを立て計画的に作成していく。

#### (4) 職員育成

##### 【喫茶ゆうほー】

- ・他事業所への見学と事業所間の交流

##### 【工房 結】

- ・エイト紙工への研修、技術指導

#### (5) 地域との交流・連携

##### 【喫茶ゆうほー】

- ・高齢者施設や近隣の学校等、教育機関との交流
- ・近隣農家との交流
- ・農業祭（11月）への出店

##### 【工房 結】

- ・たわわ食堂への積極的な参加（月1回）
- ・地域の清掃活動（年2回）への参加
- ・近隣幼稚園や保育園等での紙すき体験の実施

#### (6) 施設設備（修繕、備品等購入計画含む、わかるものは費用の概算記入）

##### 【喫茶ゆうほー】

- ・2階浄水器メンテナンス ・一升炊き炊飯器 ・メンバー/職員研修旅行

##### 【工房 結】

- ・プリンター1台 ・バキュームローラー1台 ・肘かけ椅子2台
- ・紙すき備品（水切りモップ・バケツ等） ・脚立等植木の整備代

### 5. 生活支援センターかざぐるま（相談支援事業）

#### (1) 事業及び経営の重点方針

- ・相談支援業務の円滑な遂行  
（新規ケース増加による業務整理、ケースの変動、障害支援区分の更新）
- ・社会生活力を高めるプログラムによる隙間支援

#### (2) 職員体制

- ・センター長1名
- ・相談支援専門員 常勤2名、非常勤2名

### (3) 事業内容

- ・サービス等利用計画の遂行、障害支援区分認定調査
- ・一般相談の対応(処遇困難ケース、高齢化等)
- ・社会生活力を高めるプログラムの一環として利用者 GH 見学学習会の実施
- ・生駒市自立支援協議会

### (4) 職員育成

- ・相談支援従事者としての基礎的なソーシャルワーク、相談援助技術を身につけ、処遇困難ケースへの対応もできる相談員を育成する。

### (5) 地域との交流・連携

- ・生活に関するネットワーク、交流
- ・マンションオーナーなど地域資源へのアプローチ

### (6) 施設設備

- ・相談支援ソフト導入の検討

## 6. デイケアセンターかざぐるま(居宅介護事業等)

### (1) 事業及び経営の重点方針

- ・休日等余暇支援の在り方を考える
- ・飽和状態の受け入れ状況の整理、他事業所との連携、人材確保

### (2) 職員体制

- ・センター長1名(兼務)
- ・支援員 常勤1名、サポート(登録ヘルパー)約15名

### (3) 事業内容

- ・休日余暇支援(外出支援、ふうしゃの会企画年2回)
- ・日中一時支援(必要最低限の枠調整)
- ・居宅介護(主として通院等介助)
- ・その他イベント開催等

### (4) 職員育成

- ・利用者への対応について安全かつ専門的な知識を持って、地域の中での生活を充実させられるような支援スキルを身に着ける。

- ・具体的な外出場面でのリスクマネジメントや特性に合わせた環境配慮、コミュニケーションなどを学ぶ機会を持つ。

(5) 地域との交流・連携

- ・イベントに関わる地域講師との連動

(6) 施設設備

- ・和家備品関係(追加購入分、看板)                      ・ヘルパー募集広告

7. 福祉ホームおかりなの家（福祉ホーム事業、居宅介護事業等の一部）

ラベンダー・一歩の家・ポピー・クローバー（グループホーム事業、地域生活支援拠点事業）

ラベンダー・福祉ホームおかりなの家（短期入所事業）

(1) 事業及び経営の重点方針

- ①GH 拡充計画
- ②勤務形態の見直し
- ③人材確保
- ④重度化/高齢化に向けた対応強化（地域生活支援拠点事業）

(2) 職員体制

- ・施設長 1名
- 支援員 常勤12名、嘱託4名（内一人兼務）、非常勤2名
- サポート約30名（内泊スタッフ28名）

(3) 事業内容

- ①GH 拡充計画
  - ・「土地・物件確保」「福祉ホーム利用者地域移行」
- ②勤務形態の見直し
  - ・夜勤体制、中抜け勤務の検証を行い、泊スタッフの確保や給料の見直し（夜勤手当）を行う。中抜け勤務時の休憩場所の確保と各ホーム宿泊スタッフ配置の見直しを行う。
- ③人材確保
  - ・必要に応じた求人や求人内容の見直し（各大学・各種求人サイト等）
  - ・生駒市以外の近隣市町村への求人情報の発信

- ・引継ぎ時のカリキュラムの見直し（仕事の楽しみややりがい・安心感を伝えることができるような引継ぎ）

#### ④ 重度化/高齢化に向けた対応強化

- ・施設内看護師/嘱託医との連携
- ・協力病院との連携
- ・皮膚科往診依頼の検討
- ・必要に応じた信託ノートの作成
- ・地域拠点事業開始に伴いニーズ把握と情報整理を行い緊急時の相談対応に備える。

#### （４）職員育成

- ・法人内外の研修参加により基礎的な知識から専門的な知識を学び、その他でも新人職員から管理職まで各段階で必要なマネジメント力の向上を図る。
- ・他施設交流によって支援方法や人員配置の工夫などを学ぶ機会をもつ。
- ・職員間でより相談が出来るやすい環境づくり、電話連絡だけではなく直接話すことができる相談機能（日勤帯）の強化を行う。

#### （５）地域との交流・連携

- ・自治会単位での地域清掃や防災訓練への参加

#### （６）施設設備

##### 福祉ホーム

- ・ガス給湯器（老朽化のため故障の想定）
- ・エアコン室外機（老朽化のため故障の想定）
- ・屋根樋修繕
- ・中庭草の手入れ（防草シート）
- ・テレビ
- ・エアコンフィルタークリーニング

##### グループホーム

- ・ハウスクリーニング ※ラベンダー以外の3ホーム（エアコンフィルター・浴槽配管清掃など）
- ・ポピー玄関先手すり
- ・洗濯機（一歩の家・ポピー）
- ・乾燥機（一歩の家）
- ・ポピー・クローバー草刈り
- ・防草シート

## 8. 放課後等デイサービスふるふる（放課後等デイサービス事業）

### （1）事業及び経営の重点方針

- ・ 重度知的障がいのある中高生への卒業後を見据えた放課後支援
- ・ 家庭との連携強化

### （2）職員体制

- ・ 所属長 係長 1 名（兼務・管理業務） 支援員 常勤 1 名、非常勤 2 名、サポート（登録ヘルパー）若干名

### （3）事業内容

- ・ 人員配置基準の変更に伴い、開所日を週 4 日月曜日～木曜日に縮小する。
- ・ 家族との面談実施に伴いアセスメントや支援内容、家庭へのフィードバックを図る。
- ・ 対人関係やコミュニケーション、意思決定支援を中心に個人の特性を踏まえながら集団プログラムや余暇活動を実施する。
- ・ 卒業後の活動を見据えて本人の理解、適性に合った作業、動機の高い活動を模索し引き継ぐ。

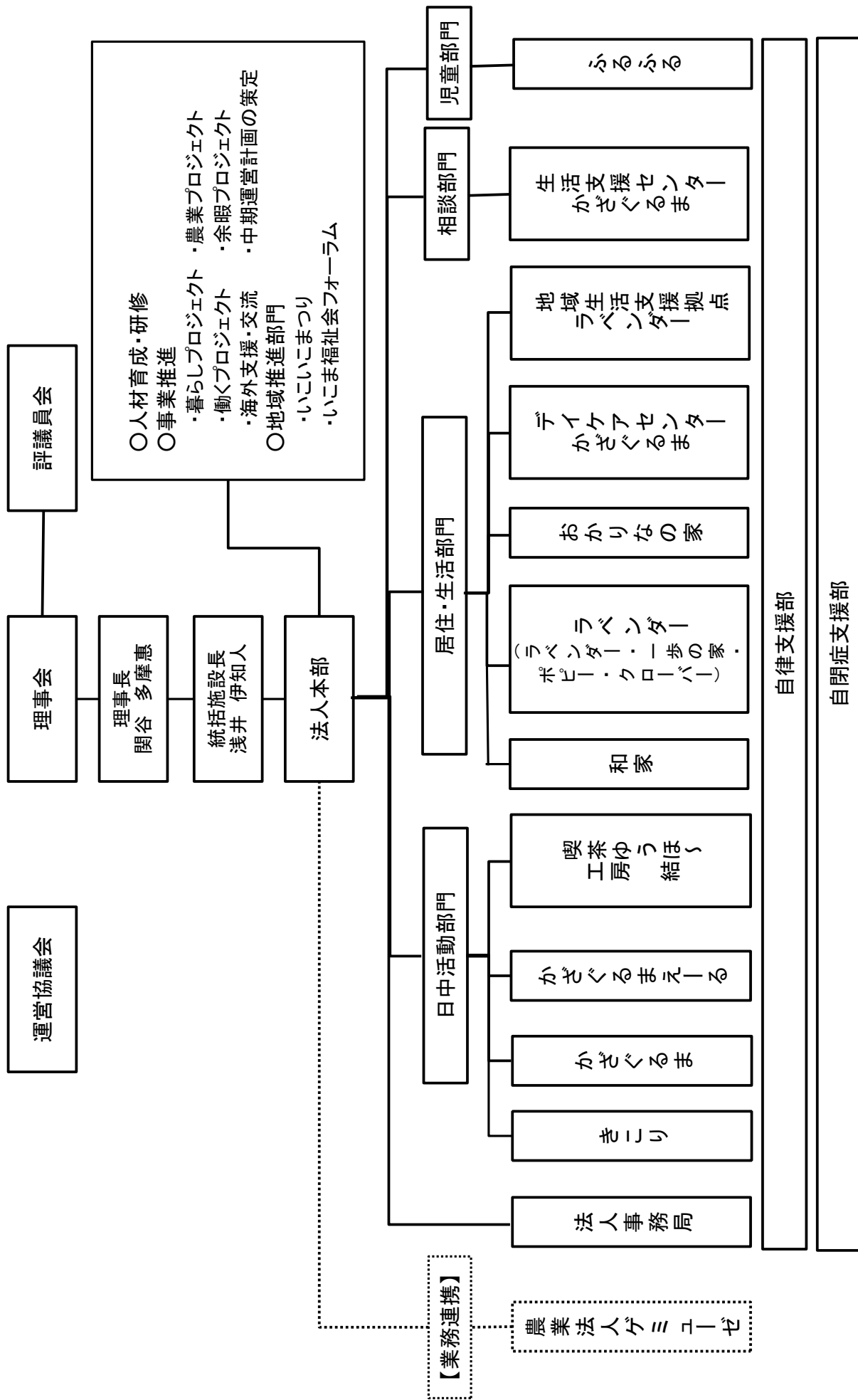
### （4）職員育成

- ・ 清水基金海外研修による先進国、先進地での取り組みを学び、事業所に還元する。そうした機会を受けて法人、事業所内での取り組み内容、支援方法の見直し、実行に取り組んでいく。

### （5）地域との交流・連携

- ・ イベントに関わる地域講師との連動等

# 平成30年度 社会福祉法人いこま福祉会 法人組織図



平成30年度 社会福祉法人いこま福祉会 研修リスト

《施設内研修》

H30.4.1

研修名	形態	実施日・時間帯	講師(敬称略)	所属・専門等	対象職員
リスクマネジメント		7月頃 平日・夜		未定	正職・嘱託
事例研究会(2回) 事業所職員交換実習(1回)		6月頃職員交換実習 8月・10月頃事例研究会 平日・夜		南山城学園 翼	有志の職員
法人内 研修報告会(2回)		8月・12月 平日・昼		法人職員	正職・嘱託・非常勤
救急救命講習(2回)		12月頃 平日・昼 (2回)		生駒市消防局	全職員(2回に分けて)
医療と福祉の連携		11月頃 土日・昼		未定	正職・嘱託・非常勤
いこま福祉会フォーラム 『農業と福祉』		9月頃 土日・昼		未定	正職・嘱託・非常勤
菌磨き指導		H31年1月 平日・昼		奈良県歯科衛生士会	ホーム職員(アルバイト含む)
職員スーパーバイズ		4月～3月(通年) 平日・昼	登丸 和子	スーパーバイザー	正職・嘱託・非常勤
構造化コンサル・ケース事例発表		6月・9月・11月・2月 平日・夜	中山 清司	自閉症eサービズ所長	正職・嘱託
摂食指導	OFF-JT	7月・12月 平日・昼	松下 真一郎	奈良県言語聴覚士会会長	えーる職員・ホーム職員
医療的観点から自閉症を理解する		年2回程度 平日・夜	松下 真一郎	奈良県言語聴覚士会会長	有志の職員



《施設外研修》

研修名	形態	実施日	主催	対象職員
全国知的障害関係施設長等会議		6月・12月	日本知的障害者福祉協会	施設長
知的障害者施設協会 関係研修		下半期	知的障害者施設協会	中堅職員・ホーム職員
GH学会全国大会		7月頃	障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会	ホーム職員
虐待防止に関する研修		11月頃	奈良県障害福祉課	中堅・リーダー職員
行動障がいをどう捉えるか		12月頃	社会福祉法人水仙福祉会	希望者
強度行動障害者支援者養成研修		12月頃	奈良県障害福祉課	中堅職員
自閉症eサービス 基礎講座		5月～7月/日曜 【計4日】	自閉症eサービス@奈良	希望者・有志の職員
自閉症eサービス 中級講座		9月～12月/日曜 【計4日】	自閉症eサービス@奈良	希望者・有志の職員
自閉症eサービス 初任者のための実技講習		7月22日(日)	自閉症eサービス@奈良	希望者・有志の職員
自閉症eサービス 事例検討会		5月25日(金) 以降、4回 【計5日】	自閉症eサービス@奈良	希望者・有志の職員
自閉症eサービス 事例報告会		H31年3月3日(日)	自閉症eサービス@奈良	希望者・有志の職員
他事業所視察・見学		通年	行き先： 農業に関する活動、工賃アップ 他	正職・嘱託・非常勤

《家族合同勉強会》

研修名	形態	実施日・時間帯	講師(敬称略)	所属・専門等	対象職員
権利擁護・成年後見人制度について		10月頃予定	神谷氏 他	NPO法人Nネット	ご家族・法人職員



